



その人は本当に最低か？



雲地草夫

## その人は本当に最低か？

---

折に触れ「あいつは最低だ」という言葉を発する人は少なくない。

だが世の中を広く見聞きしているうちに、こういうことに気がつかないだろうか。男性の多くが最低だと言う男性は、異性の目からは必ずしも同じ意味の最低とは映っていないことがある。なぜそのようなことが起こるのだろうか。

人間誰しも、自分の身に降りかかって欲しくない恐ろしい事柄をいろいろと想像することができる。そしてそれらが自分に寄り付かないように頑強なバリアーを張るものだ。そのバリアーを張るために使われる思考様式（マインドセット）が武士道や人道といったものだ。つまり恐怖を武士道や人道といったオブラートで包み込んでしまうのだ。

具体例を挙げよう。神風特攻隊が太平洋戦争でやったことは、飛行機に乗ってアメリカ艦船に体当たりするという、アメリカ側から見たら極めて最低な行為だ。だが日本人はそれを武士道のオブラートで包み込み、最低な行為でないように自分たちの中では見せかけている。新渡戸稲造の書には「武士道とは死ぬことと見つけたり」とある。捨て身で相手に突っ込んでいく行為を新渡戸稲造の武士道に照らして歪なまでに美化したものが神風特攻隊だ。では特攻隊員が一番恐れていたことは何だったのだろうか？果たしてアメリカによる占領だったのか？それは違うのではないか。特攻隊員たちが一番恐れていたことは、徴兵を忌避することによって受ける憲兵による拷問あるいは、家族が受ける村八分だったのではないか。

つまり飛行機で特攻するという最低な行為が最高な行為に摩り替わっている。そして徴兵を忌避するというごく自然な感情の発露が最低な行為に摩り替わっている。

もうひとつ例を挙げてみよう。サラリーマンはリストラという最大の恐怖を人道というオブラートに包み込む。「これは君のためなんだよ」などと言いながら退職を促したり、難しい課題を与えたりする。自分以外の人を退職に追い込めば自分がリストラされる可能性が低くなるからだ。「君のためだ君のためだ」と言っていれば人道に外れていないような気がしてくるし、厳しく叱責したときと違って暴力で返される可能性も少ない。

サラリーマンは人道というオブラートに包んで最低なことをたくさんしている。

そういう最低な行為をしまくっている人たちに注意を喚起しておきたい。同性の同僚たちはその行為をして当然と思うかもしれないが異性の同僚たちは案外よく見ているぞ。「最低なことばかりするから可愛そうで愛おしい」になったら男としてThe Endだ。